

経営比較分析表（令和4年度決算）

千葉県船橋市 医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	I 訓ガ	救臨が災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
647,037	35,581	非該当	非該当	7：1

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
449	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	449
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
412	-	412

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
[]	令和4年度全国平均

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

地域医療支援病院として地域の医療機関等と密接に連携し、救命救急センター並びに総合診療機能を有する施設として、東葛南部地域において高度急性期医療を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和4年度は引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、医療収支比率は92.0%となった。経常収支比率は、新型コロナウイルス感染症に係る補助金により100%を上回ったものの、経常収益よりも経常費用の増加幅が大きく、前年度比3.9ポイント減となった。また、開院以来、累積欠損金は発生していない。

職員給与対医療収益比率は、職員数の増等により給与費が増加したものの医療収益も増加したことにより、前年度より減少した（平成30年度、令和元年度は臨時・非常勤職員の給与費を賃金として「その他医療費用」で計上したため、それぞれ48.6%、48.1%となっているが、令和2年度以降と同様に計上した場合、平成30年度は52.5%、令和元年度は51.8%となる。）。材料費対医療収益比率は、高額な抗がん剤や診療材料の使用により類似病院の平均値より高くなっているが、患者1人1日当たりの収益も年々増加している。

2. 老朽化の状況について

昭和58年の開院以来、増築工事や改修工事を繰り返してきたが、施設の老朽化及び狭あい化が進んでいるため、現在、病院の建替えに向けて取り組んでおり、令和4年度末には実施設計に着手した。新病院建設を控えているため、有形固定資産減価償却率及び器械備品減価償却率については平均値を上回っているが、移行の可否を考慮しつつ、計画的な医療機器の更新および購入を行っている。

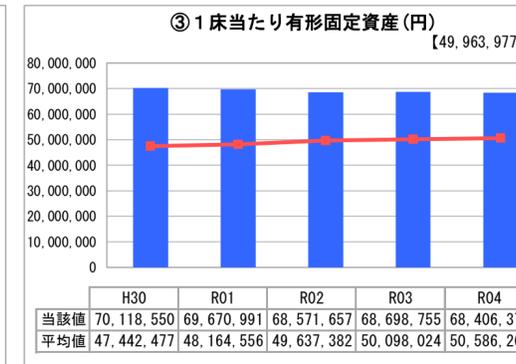
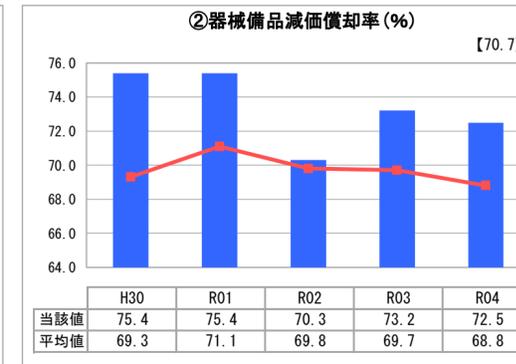
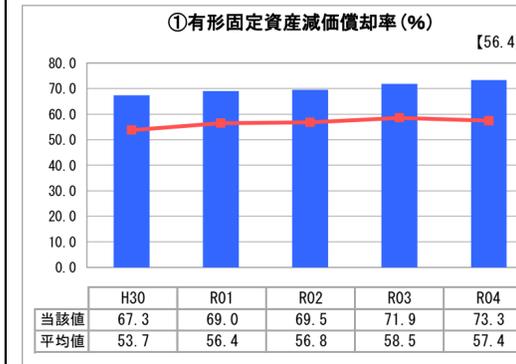
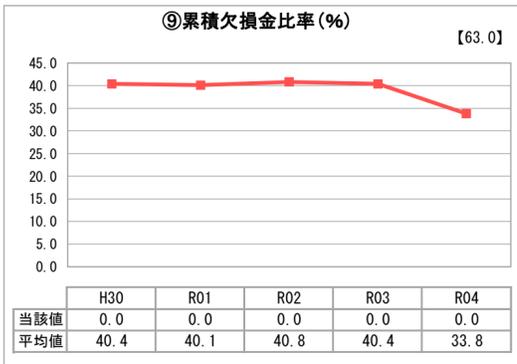
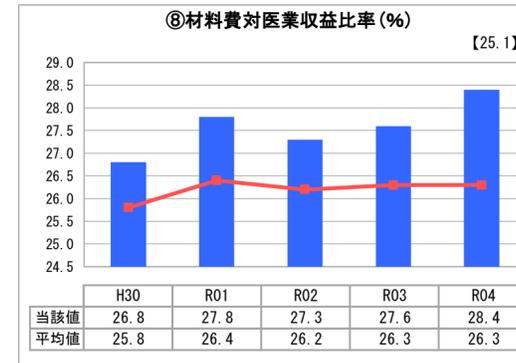
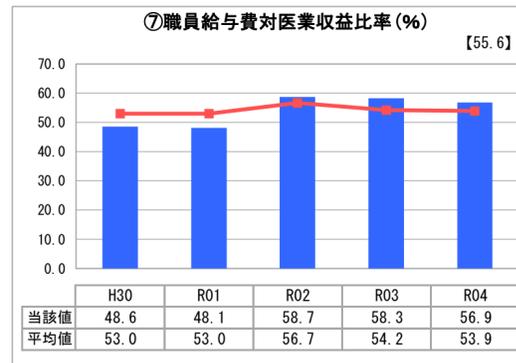
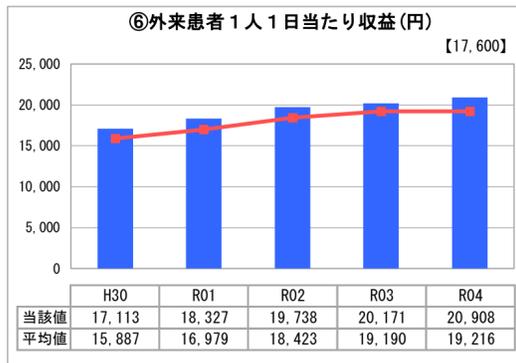
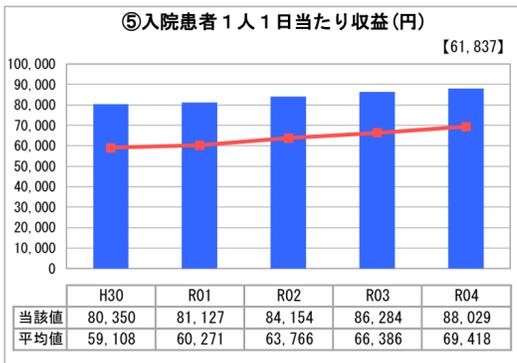
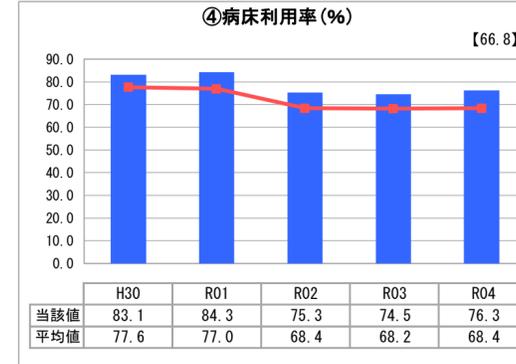
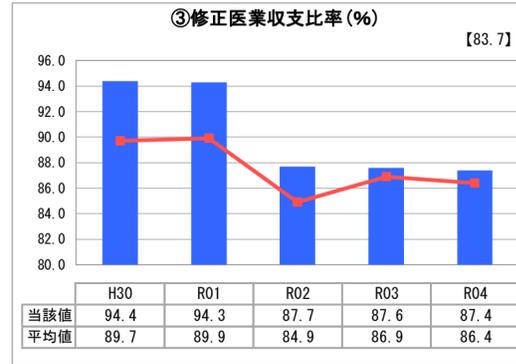
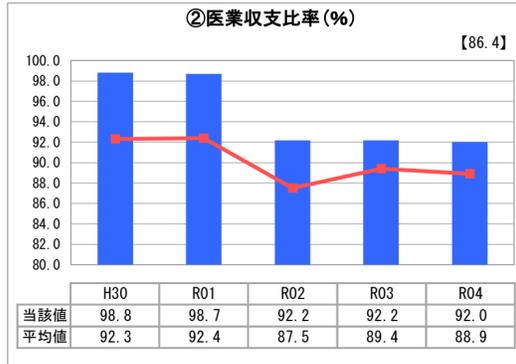
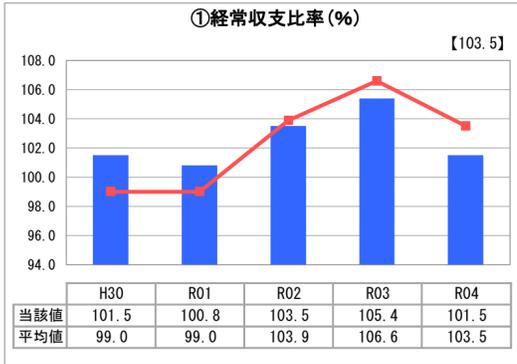
全体総括

令和4年度は引き続き新型コロナウイルス感染症の患者の受け入れを行うとともに、本来の使命である高度急性期医療の提供を維持できるよう努めた。

新公立病院改革プランについては平成29年度に策定し、最終年度である令和2年度まで経常収支比率100%以上を維持することが出来た。令和3年度からは「第5期船橋市立医療センター中期経営計画」に基づき、引き続き医療の質の向上を目指すとともに、収入の確保、経費の削減に向けた取り組みを行うことで経営基盤のさらなる強化を図った。

また、地域における当院の役割を果たすため、引き続き救急患者の積極的な受け入れを行うとともに、地域医療支援病院として他医療機関との連携を強化することにより、紹介率・逆紹介率の上昇や患者数の増を目指す。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。